

# あけの

伊勢市立明野小学校  
 伊勢市小俣町明野 1939  
 校長 伊豆 敏  
 電話 24-5171  
 FAX 24-5172  
 E-mail akeno@el.ise-mie.ed.jp

**学校教育目標 「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」**

～ 困いさつ ぞうじ けんきょう 「あそべ」をがんばろう ～ いじめをなくそう ～

後期に入ってから、チャリティーコンサート、文化祭、学校公開デー、人権集会、餅つき等の行事がありました。子どもたちはこれらの行事に真剣に取り組むことで、自分の役割を自覚することの大切さや友達と協力して作り上げることの喜びや達成感などを経験しました。また、色々な作品展やコンクールなどにも積極的に出品し、自分の得意な分野で良い結果を残すことができた子どももいました。こういった子どもたちの頑張りは、支えていただいた保護者や地域の皆さんのご協力のおかげでもあります。心から感謝申し上げます。



4年チャリティーコンサート

**◇文化祭◇ 11月9日(土)**

文化祭には朝早くから、保護者・地域の方には多数ご来校いただきありがとうございました。午前中は作品展示の見学、劇団ポプラの「宝島」の演劇鑑賞、午後からは児童会行事で4年生と5年生の合唱、児童会主催のレクリエーションを行いました。子どもたちも文化祭に向けて一生懸命、準備や練習を積んできました。子どもたちの作品、発表等、ゆっくりご覧いただけましたでしょうか？また、食券の売り上げにもご協力いただきありがとうございました。おかげで心に残る文化祭にすることができました。



劇団ポプラ「宝島」

**◇学校開放デー◇ 12月4日(水)**

学校公開デーにもたくさんの保護者をご来校いただきました。1年生では3・4限目に伊勢保健所の「動物とともに」命を考える出前授業を行いました。3年生は1～4限目にかけて伊勢市の障がい福祉課さんの手話教室を行いました。6年生は4限目に教育研究所から講師の先生に来ていただいて情報モラルの授業を行いました。また、体育館では2・4・5・6年生のPTAの学年行事も行われました。保護者の方には子どもたちの学校の様子を見ていただくことが出来たようです。



1年 伊勢保健所出前授業

**◇人権集会◇ 12月5日(木)・6日(金)**

1・2年生の人権集会では「ぼくのきもち きみのきもち」という紙芝居を見ました。この紙芝居は相手を理解することや、思いやる気持ちの大切さをテーマに、いじめられている児童(シバ夫)と、いじめをしている児童(ブル太郎)の体が入り替わることで、お互いの気持ちに気づき、理解しようというあらすじです。3・4年生は障がいをテーマとした人権集会でした。「みえないってどんなこと?」「どんなかんじかなあ」「スーパーくるまです」の本の読み聞かせを行いました。5・6年生の人権集会は全国中学生人権作文コンテストの入賞作品の中から外国人差別や障がい者理解をテーマにアニメ化したものを視聴しました。各学年の取り組みで子どもたちは色々なことを自分のこととして感じてくれたのではないのでしょうか。各学年代表の人権標語の発表も行われました。

**【校内人権標語コンクール学年代表の人権標語】**

- 1年代表 田端 愛波さん 「入れて」「いいよ」 みんなであそぶと いいきもち」
- 2年代表 橋爪 健汰さん 「ともだちは きらきらがやく たからもの」
- 3年代表 秦 小晴さん 「君の言葉 本当にいいの 考えて」
- 4年代表 西尾 龍信さん 「あいさつは 元気の種を さかせるよ」
- 5年代表 辻 優莉奈さん 「つらいとき 必ずだれか そばにいる」
- 6年代表 下井 聖さん 「助け合い いろいろな人と つながろう」

## ◇子どもは大人の鏡◇

子どもは生活環境や身近にいる大人から大きな影響を受けて育ちます。兄弟姉妹や同級生と比較ばかりしていたり、ご褒美のために何かをさせたりするというご家庭の話を時折耳にすることがあります。子どもの健全な成長のためには、温かな親子関係や家庭環境が大前提となっていますし、ほとんどの家庭では、子どもの内面に目を向けて日々の接し方を丁寧にされています。一方で子育てに悩みや不安をお持ちの保護者の話も聞きます。毎回、保護者の皆様にも一緒に考えていただきたいという思いを込めて、色々なことわざや詩等を引用して「学校だより」の紙面に載せています。以前、学校だよりでも紹介した『子どもは大人の鏡』という詩を再掲しますので、改めて子育てについてふりかえてみてはいかがでしょうか。

### 『子どもは大人の鏡』 ドロシー・ロー・ノルト 作

子どもは、批判されて育つと人を責めることを学ぶ  
子どもは、憎しみの中で育つと人と争うことを学ぶ  
子どもは、恐怖の中で育つとオドオドした小心者になる  
子どもは、憐れみを受けて育つと自分を可哀想だと思ふようになる  
子どもは、馬鹿にされて育つと自分を表現できなくなる  
子どもは、嫉妬の中で育つと人をねたむようになる  
子どもは、ひけめを感じながら育つと罪悪感を持つようになる  
子どもは、辛抱強さを見て育つと耐えることを学ぶ  
子どもは、正直さと公平さを見て育つと真実と正義を学ぶ  
子どもは、励まされて育つと自信を持つようになる  
子どもは、ほめられて育つと人に感謝するようになる  
子どもは、存在を認められて育つと自分が好きになる  
子どもは、努力を認められて育つと目標を持つようになる  
子どもは、皆で分け合うのを見て育つと人に分け与えるようになる  
子どもは、静かな落ち着いた中で育つと平和な心を持つようになる  
子どもは、安心感を与えられて育つと自分や人を信じるようになる  
子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと生きることは楽しいことだと知る  
子どもは、まわりから受け入れられて育つと世界中が愛であふれていることを知る。

あなたの子どもはどんな環境で育っていますか？

## ◇お願い◇

児童の安全、危険防止のため、首からかけるポシェット、首にかけるタイプのウイルス感染防止の用品は、学校では使用をひかえていただくことになりました。ハンカチ・ティッシュを入れるポシェットやウイルス感染防止予防の用品は、ひものないものを使っていただくようお願いいたします。

## ◇年末・年始…日本の伝統的な行事について調べよう◇

いよいよ25日(水)から冬休みに入ります。年末・年始には、日本に古くから伝わる色々な行事が行われます。年末には各地の神社やお寺で「すす払い」が行われたり、お正月に備えて「しめ縄」を替えたり「餅つき」が行われたりします。大晦日には全国のお寺で「除夜の鐘」がつかれたり、「年越しそば」を食べたりする習慣もあります。また、新年になると「おせち料理」や「お雑煮」を食べて「初詣」に行き、「お年玉」をもらったりもします。「かるた」や「百人一首」「すごろく」などの遊びをする家庭もあるのではないのでしょうか。

昔から続いてきたこれらの伝統的な行事や遊びは、日本の大切な文化です。こういった行事や遊びの意味について考えてみたり調べてみたりしてはいかがでしょうか？年末・年始は1年間の中でも最もあわただしい時期です。「冬休みの生活」のプリントをお子様と一緒に読んでいただき、交通事故などに注意して、元気でお正月をお迎えください。1月7日(火)に元気に登校してくれることを願っています。

この詩を書いたのは、アメリカ・ロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士です。

2005年に亡くなるまで、40年以上にわたって『家族について』の講習や親子関係の研究を続けていました。ドロシー博士は、この詩についてこう語っていました。

「良いことも悪いことも、子どもが一番の見本である『親』を見て学習します。愛する子どもには幸せな人生を歩んでもらいたい。そのためには、親が自らの行動が子どもの『鏡』となっていることに気づくべきなのでしょう。」

自分の姿を、子どもにどのように見られているのか、ハッとさせられます。「どうしてうちの子はこうなんだろう？」と悩んだ時に、読んでみると納得する言葉ではないのでしょうか。

12月28日(土)～1月5日(日)は、学校に職員がいません。その間、命に関わること等の緊急を要する事柄に限り、学校に電話してもつながらない場合は、22-7881(伊勢市教育委員会事務局 学校教育課)にご連絡ください。その際、学校名、学年、クラス、名前、内容、折り返しの連絡先を伝えてください。よろしく申し上げます。